

アラウンド GOGO 55

生き続けるという選択

佐々木美智子

の子どもと親たち（発達相談、若者たち（授業）と共有する時空間は、かつてにも増して感動がある。了解しあえる関係をこそ求めていたのだと知る。生き続けると新たな地平が開けてくる。

55歳と言えば、昔なら停年である。世界に冠たる長寿国となった日本でも、誰もが85歳以上まで生きるというわけではないと、縁ある人々の病死、自死、事故死との別れの数だけ知った。「息を引き取る」というのは、その人の息が止まることだけを意味するのではなく、息を引き継いで生きていくのだと、父を看取った瞬間の喉元の初体感で知った。

さかのぼれば38億年の地球の生命の始原に行き着くことを、現代人なら知っている。見わたせば、道に咲く草花も、庭に動く犬猫も、皆、命の歴史は同じ長さである。ゲノム解明の科学の成果は、改めて宗教的教義の真理を教えてくれたりもする。

球の重力に抗して立ち、食い物を噛み、遠く近くを視、音声を聴くことを、一つひとつ意識する日々が来る。己のさまざまな誤学習、学習不全、そうなるに到った諸要因も冷静に振り返ることができる。

親子、夫婦、友人、その他の関係性の結びなおしもできる。ゆっくりとでも確実にそれらをなして来た人には必要のない事柄を、急ぎ足で来た者には宿題が多すぎる。

（鹿児島支部・大学教員）
*「アラウンド55（ゴーゴー）」は50代をむかえた会員による介護や健康、人生設計などをテーマにした800字のエッセイコーナーです。

私の命の始まりは、祖母の体内に母が宿った時にあり、